

ベタニアホームは、愛のあるサービスを提供しています！

活動先・・・ベタニアホーム

1. 活動先紹介

- 一、 介護は愛なり 二、笑顔がいちばん 三、しあわせに輝く生活
四、町づくりの担い手 五、介護のさきがけ

という5つの願いを理念として下地域の方の役に立つ介護を目指している。私たちが活動させていただいたデイサービスでは、一人ひとりをたいせつにして、少人数で家庭的な雰囲気の中で利用者の自立への努力にあったサービスを提供している。普通の民家をバリアフリー化し、天気の良い日には庭を眺めながら日向ぼっこができるようなアットホームな環境であることがデイサービスの施設の特徴としてあげられる。また、近くに半田の図書館・博物館があり、お花見や散歩を行える環境が整っている。おいしい食事・楽しいレクリエーション・嬉しい機能訓練・また来たくなるデイサービスを作り上げている！

職員の方の特徴としては、以前に大きな施設で働いていた方が多く、「利用者の方と深く付き合いたい」という思いを持ち、ベタニアホームで仕事をしている。

2. 当初の活動目的や目標

利用者の方たちと触れ合い、一緒に運動を行う中で一人一人のニーズに応えられるよう、また個人の個性を尊重した活動はどのようなものがあるかを学びたい。

主に回想法を活動内容に取り入れ、その時代の生の声を聞き、さらに詳しい話を引き出すためにはどのような話題提供が有効なのかなど、利用者の方と親密に話ができるようなコミュニケーションの取り方を学びたい。

3. 自分たちの活動内容

ベタニアホームのいつもの一日の流れに沿った形で活動させていただいた。利用者さんの送迎に同伴させていただいたり、入浴前後のケア、また食事前後の口や体全体の運動に参加させてもらったりした。あとはゆっくりのびのびと過ごされている利用者さんとお話ししたりして活動させていただいた。そして、午後から時間を使い、サービスラーニングの活動プランとして折り紙や染め物、ちぎり絵などのレクリエーションをさせていただいた。

A.問題点・課題 学んだこと・理解したこと・成長したこと

今回のサービスラーニングでは、活動を企画したり、全体的に見て準備不足が多かったことが、問題点であり、これからの課題であると考えます。ベタニアホームの職員さんから、“レクリエーションを企画するとき、準備するときは利用者さんが実際にそのレクリエーションをしている様子を思い浮かべながらする”というアドバイスをいただきました。実際に利用者さんと一緒に過ごしたときに“レクリ

ーションではこんな工夫が必要かもしれない”と気づいたことがあった。もっと早くにそのことを予想できていたら、準備を進めていく段階で工夫することができ、当初の活動目標も達成できたのではないかと思う。

またコミュニケーションについても同様の達成状況である。利用者さんとは、世代が違うためか何を話したらよいのか分からず、戸惑うことがあった。また、活動中にわからないことがあった時にすぐに聞くことができればよかったが、ためらってしまいあまり聞くことができなかった。分からないことやベタニアホームについてもっと職員さんともお話できれば良かったと思う。

今回活動したベタニアホームでは、利用者さんを尊重し活動していることがよく分かった。それは、話し方や、話す姿勢からうかがうことができた。そのような姿勢は、利用者さんとの信頼関係を築くうえでとても大切なことなのだとということも学んだ。

また、活動プランのレクリエーションでは、私自身が勝手に“このレクリエーションは、この作業をして楽しむ”といった固定した考えを持っていたが、そうではなく私や他の利用者さんが作業をしている様子をゆっくり眺めて楽しめる方もみえたり、いくつかある作業の中の一つだけに集中してレクリエーションを楽しめる方もみえたりして、一つのレクリエーションにはたくさんの楽しみ方があることを学んだ。また、利用者さんのそれぞれの楽しみ方を理解しながら進めていくことは、利用者さんを尊重することにもつながるのではないかなと考える。

ここで、主な私たちの行った活動ごとに反省を述べようと思う。

(1)藍染め * 3日間に分けて行った。

1日目…ひもや輪ゴム、ビー玉などを使ってハンカチ程度の大きさの麻布でしぼりを行った。初めはしぼり方がわからなかった方もコツをつかむととても楽しそうにやってみえた。布を小さく折ってひもで結んでみたりと、様々な工夫をされているかたもみえた。

2日目…しぼった布を染料に実際つけてもらって、これから染めるということを感じてもらった。みなさん染まっているのを見て、出来上がりを楽しみにされていた。

3日目…干していた布をみなさんの前で開いた。それぞれ違った模様ができた。ハンカチとして使っていただくつもりだったが、職員の方の提案ですべてをつなげてのれんにすることにした。どれをどうつなげるのかを利用者のかたと相談して決めた。

| |
|-------------------------------------|
| B.問題点・課題 学んだこと・理解したこと・成長したこと |
|-------------------------------------|

全体的に成功したのではないかと思う。利用者の方も職員の方もとても楽しんでもらった。ただ、曜日によって来られる方が違っていたので、利用者の方全員に3日も参加してもらうことができなかった。昨日はこんなことをしたと説明すると理解してもらえたが、やはり段階を一緒にふんで完成させたかったことが

少し残念だった。利用者の方は男性も女性も関係なく器用にしぼりをやってみえたというのが印象的だった。口頭だけで説明するのではなく、実際にやってみせることが一番理解してもらえるとということがわかった。

(2) アルバムづくり

私たちが活動させていただいたときに写真を撮らせてもらい、利用者の方と写真を選んでB紙に貼った。それだけでなく飾りとして折り紙を折ったり、何枚か合わさっている紙をめくってもらって花を作ってもらったりした。この花は、色の違う紙を交互に重ねて、次にめくるものがわかりやすいように工夫した。職員の方の協力もあり、たくさんの写真でアルバムを完成することができた。また、写真を撮った時の様子などをカードに書いてもらい、ここでは、文字を書くことで頭と指を動かす運動も含まれている。

| |
|--|
| C.問題点・課題 学んだこと・理解したこと・成長したこと |
|--|

利用者の方の人数が少なく、少し急いで作業をさせてしまってベタニアホームに合ったゆったりとした雰囲気で行うことが難しかった。また、作業されるのが一部の方に固まってしまった。写真を貼ったり、折り紙を折ったり、利用者の方がしたいことをしてもらえればいいと思っていたが、逆に1つの時間に1つの作業を行ってもらったほうが集中して楽しんでもらえるということが分かった。レクリエーションをしている間も利用者の方同士が交流できるように話を振って、全体で楽しんでもらえる雰囲気を作ることも大切だということがわかった。利用者の方の体調は常に気を配り、「〇〇してはダメ」という否定的な言い方ではなく、「〇〇するといいかもしれないよ」と助言するような言い方が利用者の方も受けとめやすいことを学んだ。自分でカードに書く文字を考えるのが苦手な方・文字を書くのが苦手な方がおり、こういった方には「この時は、何をやっていたのですか?」、「〇〇を書いたらどうですか?」といったその時の様子を思い出してもらうような質問をし、文字を考えてもらったり、提案をする。また、文字を書くのが苦手な方には、利用者の方が言った文字を書くなどをすると利用者の方もスムーズに作業を行うことができた。

(3) 昭和の雑誌を見て、利用者の方の生活の様子を伺う

昭和初期の様子を写した写真を見て、戦時中の食べ物・遊び・生活の様子などを聞く。ここでは、利用者の方全員で当時の生活の様子や食べ物について話した。全員で話すことでさつまも1つでも地域によって調理の仕方が違うのが明らかになった。

(4) 図書館へ行き、昭和の生活用具を見る

図書館で昭和の生活雑貨の展示会が行われていたので行き、(1)と同様生活の様子・生活用品などの使い方を聞いた。また、知多で有名な「山車祭り」についても聞くことができた。

D.問題点・課題 学んだこと・理解したこと・成長したこと

(3)、(4)は回想法を目的とした活動である。

(3)→昔の話を自ら進んで話してくれる利用者の方もいたが、「〇〇はどうでしたか？」と話題をふってやっと答えてくれる利用者の方が多かった。また、思い出すことを好まない方もいた。しかし、聞き方を少し変えるだけで少しずつではあるが話して下さった。「戦時中はさつまいもを食べていたのですか？」という聞き方ではなく「さつまいもをどのように調理して食べていたのですか？」という聞き方をすることで利用者の方も話しやすく、様々な調理法を教えていただくことができたうえに、地域によって調理法が異なるということが分かった。

(4)→(3)とは違い自ら進んで話をして下さる方が多かった。しかし、洗濯機など実際使っていた道具を見ても当時の生活が思い出せない方もみえ、その方にどう接したらいいのか困り、職員の方に助けってもらった。

(3)と比較すると、写真で回想法を行うより実際の物を間近で見て回想法を行った方が効果はあるということが分かった。

① 活動先への提案

みんなで歌を歌うとき、職員の方が一人でまとめていることが多かった。職員の人数が少ないからというのもあるが、もう少し人数を増やして手拍子をして一緒に歌うと利用者の方も歌いやすいのではないかと思った。

食後の運動で、ボーリングゲームや的あてゲームなどをしてきた。今回私たちは机で作業する活動ばかりだった。指の運動や回想法を目的とした活動だったが、身体全体を動かすゲームも面白いなということを感じたので、利用者の方が好きな「歌を歌う」+「体を動かす」が同時に行える“童謡・唱歌カルタ”を提案します。効果として歌を歌うことで酸素をとりこめると同時に札を取る際に童謡・唱歌を考え、思い出すことで脳を刺激する。このレクリエーションは楽しみながら体が動かせる。

② 次年度活動する学生へ

3年次に行う現場実習とは異なり、このサービスマーケティングという活動は自らが活動計画を作成し行うというものであるという認識をしておく。そして、活動内容を計画する際には、利用者の方の立場になったときを想定し活動中のトラブルをある程度予測しておき対処法も考えておく。

活動計画に利用者の方と一緒に作業を行うという企画を盛り込んだ際には、事前に作業内容を確認しつつ1度試してみるといい。

利用者の方との触れ合いを大切にする。活動のこともおろそかにはできないが、一日を通して学ぶ場がたくさんあるので、そこに楽しみを持って臨めると充実した活動を行うことができると思う。